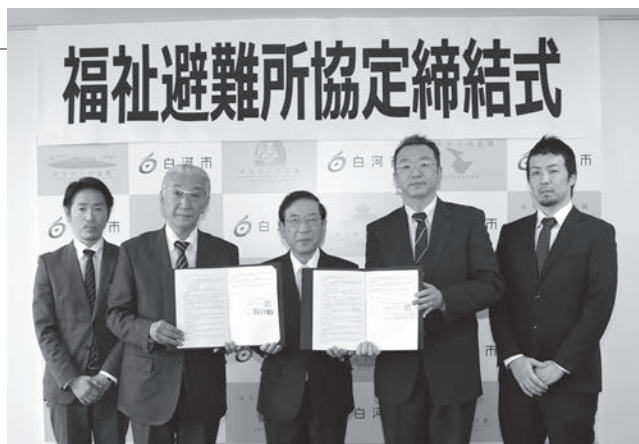


福祉避難所協定締結式
高齢者や障がい者などの避難所を確保

3月2日、本市は災害時に一般の避難所での生活が困難な高齢者や障がい者が、必要な支援を受け安心して生活できるよう、社会福祉法人の優樹福祉会（杉山和巳理事長）および真徳会（渡部芳徳理事長）と福祉避難所協定を締結しました。
今回の締結で、新たに福祉ホームひもろぎの園（関辺）とオープンハウス白河（金鈴）が加わり、中央・表郷・大信・東の各デイサービスセンターと合わせ、市内の避難所は6施設となりました。



▲左から、ひもろぎの園の宮尾直木管理者、千葉喜弘真徳会副理事長、鈴木市長、オープンハウス白河の深谷健管理者、深谷巨弘主任

EMANONオープン
若者の新たな交流拠点

3月4日、本町の空き店舗をリノベーションした「コミュニティカフェEMANON」のオープニングセレモニーが行われました。
この施設は、地方創生事業として、まちなかに若者の交流拠点をつくることを目的に、市がEMANON準備室（青砥和希理事長）に運営を委託したものです。落ち着いた雰囲気のある室内には、カフェの他に有料のレンタルスペースを設けるなど、若者だけでなく、広く一般の方にも利用できるようにしています。



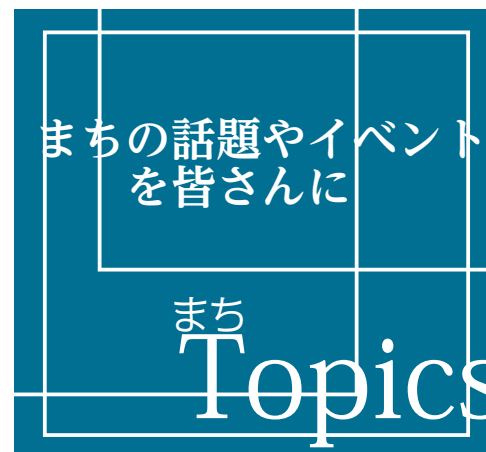
▲白河だるまを手にする青砥さん（左）と鈴木市長

自治総合センターのコミュニティ助成事業
宝くじの助成で防災体制を強化

市では、鹿島自治会自主防災会（角田喜一会長）に、（一財）自治総合センターのコミュニティ（宝くじ）助成事業を活用し、防災活動に必要な発電機やテントなどの防災資機材を交付しました。
同防災会は、平成26年の結成以来、地域が一丸となって防災活動に取り組んでいます。角田会長は、「交付された資機材を有効活用し、防災活動により一層力を注ぎます」と話しました。この助成による自主防災組織への資機材交付は、今回で17団体となりました。



▲鹿島自治会自主防災会の皆さん



▲記念碑の除幕をする参加者

葉ノ木平震災復興記念公園完成式
震災を後世に語り継ぎ、市民に親しまれる公園を整備

3月12日、東日本大震災で発生した大規模な地滑りにより13人が犠牲になった葉ノ木平地区で、「葉ノ木平震災復興記念公園」の完成式が行われました。
出席者が1分間の黙とうをささげた後、鈴木市長が亡くなられた方々に哀悼の意を述べるとともに「震災による犠牲を後世に語り継ぐ場、市民に親しまれる場にしたい」とあいさつし、記念碑の除幕を行いました。
同公園は、地滑りがあった約8,500㎡の敷地に整備されたもので、災害時には、近隣住民の避難場所となるほか、東北自動車道、国道4号・294号や医療機関が近いことから、物流や医療支援活動などの拠点になるよう、防災東屋やかまどベンチ、防災トイレ等を設置しています。



▲テントに変わった防災東屋

第4回震災復興音楽祭～希望～
復興の思いを込め、歌や踊りを披露

震災から5年を迎えた3月11日、市民会館（手代町）で「第4回震災復興音楽祭」が開催されました。
ステージでは、34団体が出演し、練習を重ねた歌や和太鼓、踊りなどを披露しました。また、浪江町出身で民謡歌手の原田直之さんが、復興への思いを込め熱唱し、聴衆はその歌声に聞き入っていました。
最後の全体合唱では、原田さんをはじめ、参加者と観客全員で市民歌「このまちがすき」と復興支援ソング「花は咲く」を歌い、音楽祭を締めくくりました。



▲会場が一つになった全体合唱